

脳波が脳波になるまで

— Hans Berger による脳波の発見 —

睡眠研究所では、研究技術・技能の研鑽のため、2019年度より、学内外の研究者を講師として招聘し、睡眠研究所スタッフを含む学内の教員、学生向けに学術フォーラムを行っています。第16回目となる今回は学外の方の参加も可能となっています。

今回の学術フォーラムでは、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の宮内哲先生にご講演いただきます。宮内先生は functional MRI による夢の視覚像とレム睡眠中の眼球運動との関連の研究で世界的に著名な研究者です。宮内先生は、2020年に「脳波の発見：ハンス・ベルガーの夢」を上梓されました。今回は、このご著書の内容をもとに、ヒト脳波の発見者であるハンス・ベルガーの生涯について詳しく話していただきます。たくさんの方のご参加をお待ちしています。



【日時】 2025年2月12日(水) 15時~17時

【場所】 江戸川大学 B棟 5階

【参加費】 無料

【講師】 宮内 哲 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) 特別研究員

【講演概要】

ドイツ・イエナ大学の精神科医ハンス・ベルガーは、20世紀初頭から研究を始め、100年前の1924年7月6日に初めてヒトの脳波の計測に成功した。しかしベルガーがヒトの脳波に関する論文の第一報を出したのは5年後の1929年、その論文が国際的に認められたのはさらに5年後の1934年だった。ベルガーがどのような着想のもとに脳波の研究を始めたのか、研究を始めてから最初の記録に成功するまでの20年間、そして最初の脳波記録から論文を出すまでの5年間に何を考え何をしたのか、なぜ最初の論文が注目されるまでにさらに5年もかかり、どのように認められていったのか？ノーベル賞級の発見が認められた7年後になぜ自殺したのか？その詳細を19世紀末から20世紀初頭の医学や社会状況とともに説明する。さらに2024年の7月6日にイエナ大学で開催された、ベルガーによるヒトの脳波の発見百周年記念イベントについても報告する。

【事前登録】 以下の URL もしくは、QR コードより事前登録をお願いします。

〆切は2025年2月3日(月) 17:00です。

なお、定員に達し次第、〆切とさせていただきます。<https://forms.gle/ptod1SgQYA5k3qSq5>



【お問い合わせ】 江戸川大学睡眠研究所 西村 律子 nishimur@edogawa-u.ac.jp